

安行小の環境学習・活動の紹介

クスノキとアオスジアゲハ

菊次 哲也

子どもたちが知っているチョウウといえ、モンシロチョウやアゲハチョウでしよう。小学校では三年生が理科でモンシロチョウの学習をします。

子どもたちはモンシロチョウの幼虫のエサはキャベツだと理科の教科書で学習します。しかしキャベツしか食べないというのは思いこみです。他にもブロッコリー、コマツナ、大根の葉などアブラナ科の野菜を幼虫は食べます。昆虫がエサとして食べる植物を食草といいます。モンシロチョウの食草はアブラナ科の野菜というわけです。

昆虫と食草のつながりが分かると、生き物の世界への興味、関心はさらに深いものになっていくのではないでしょう。昆虫に興味がある子は多いですが、植物に興味がある子となると激減してしまいます。例えばカブトムシの飼育でエサはカブトムシゼリーというだけにとどまっていたら、カブトムシは動くおもちゃとかわからないかも知れません。カブトムシをつかまえるために、どの木をさがせばいいのか、樹液はどこにあるのかと森を歩く、卵を見つけ幼虫を育てる、そこから、子ども

もたちと豊かな自然との関わりが生まれてくるのでしよう。

夏から秋にかけて、安行小の校庭に

写真のようなチョウウがよく飛んできます。アオスジアゲハです。アオスジアゲハの幼虫の食草はクスノキです。食草がわかると安行小にアオスジアゲハが多い



理由がよくわかりますね。クスノキの葉は嗅ぐと薬のような匂いがします。クスノキは樟脳(しょうのう)という防虫剤の原料です。しかし、ここで不思議には思いません。防虫剤という言葉は昆虫にとって毒となる成分がある葉を幼虫が食べるとは。実はアオスジアゲハの幼虫には無毒化する力があるというわけです。そして他の昆虫が避けるクスノキの葉をエサとして一人じめできるというわけです。他にもジャコウアゲハのように毒草のウマノスズクサを食べて、その毒を体内にためておき、鳥から食べられないように身を守るという面白いチョウウもいます。

校庭のクスノキを見たら、アオスジアゲハのことを思い出してみてください。葉を見たら、アオスジアゲハの幼虫がいるかも知れませんか。